

第8回 市長と話そう 津山^{まち}づくりミーティング ～存在を認める～



12月16日に、子どもたちの健やかな成長を願う保護司の皆さんと市長が意見交換を行いました。
※保護司は、罪を犯した人たちなどの立ち直りを支援する活動、地域の犯罪や非行を防止する活動をしています。

参加者 問題を起こす子どもたちは、小さいときから自分というものの存在を認めてもらえていません。子どもたちが、地域と関わりをもつ中で「地域に認められる子ども」「社会に認められる人」になっていくことができるのではないのでしょうか。

参加者 非行少年は、自分からなるのではなく環境がつくると感じています。

市長 大人も同じで、気に掛けてもらったり、声を掛けてもらったりするとうれしい。伝えられない思いや埋めることができない寂しさが行動になって表れてしまうのかもしれないね。

参加者 克服が必要な貧困の課題は、金銭だけでなく、人間関係の貧困、社会性の貧困、経験の貧困があると思います。親に時間がないので、「これで買って食べなさい」とお金を与えるだけという話をよく聞きます。これが親と子どもとの気持ちのつながりや、一緒に食べることで得る経験など、色々な経験不足につながっているのではないのでしょうか。

参加者 子どもや若者の居場所の無さがとても根深いと感じています。居場所づくりに力を入れるべきだと思います。「困った」と大人に言える子どもを育てたいです。

参加者 学校とのつながりを深めたいです。学校は地域に関わりがあるわたしたち保護司と連携して、保護者との関係づくりに役立てて欲しいです。学校と親が歩み寄ることができれば、子どもは変わってくると思います。

市長 「貧困」の課題をどう克服していくか。非行を未然に防ぐため、学校や地域との関わりの中で支え、「人との関わり方」「存在を認めること」が大切ですね。

参加者 自修会に入っている人たちは、測量士などの資格があってもなかなか就職できていません。みんなよく頑張っているのを認めて欲しいです。自立するために、地域の企業にも応援していただきたいです。

市長 就労して経済的に自立するためにも、地域や企業の理解が必要なんですね。更生に係る就労について再認識いたしました。



■参加者への事後アンケートの声

- ・市長の考え方が聞け、また、我々の意見を汲み取り、話を進めて下さったので良かった。
- ・他の保護司から情報を得ることができて良かった。
- ・市長や市の関係者が身近に感じられ、お互いに津山をより良くしていきたいという想いをさらに持つことができた。
- ・色々な情報や、市長の思いがよくわかり大変良かった。
- ・小さな地区での市長との懇談があれば参加したい。
- ・部長や課長などカテゴリーを狭めた懇談会があれば、具体的でリアルな結果が得られるかも。
- ・現場の声を聞き出せる会がたくさんあればと思う



（前列左から）清水稔さん、湯浅仁さん、齋藤鉄也さん

（後列左から）谷口市長、真木佐江子さん